

第1回

小松市未来型図書館基本構想策定員会

基本構想策定の概要及び今後のスケジュールについて

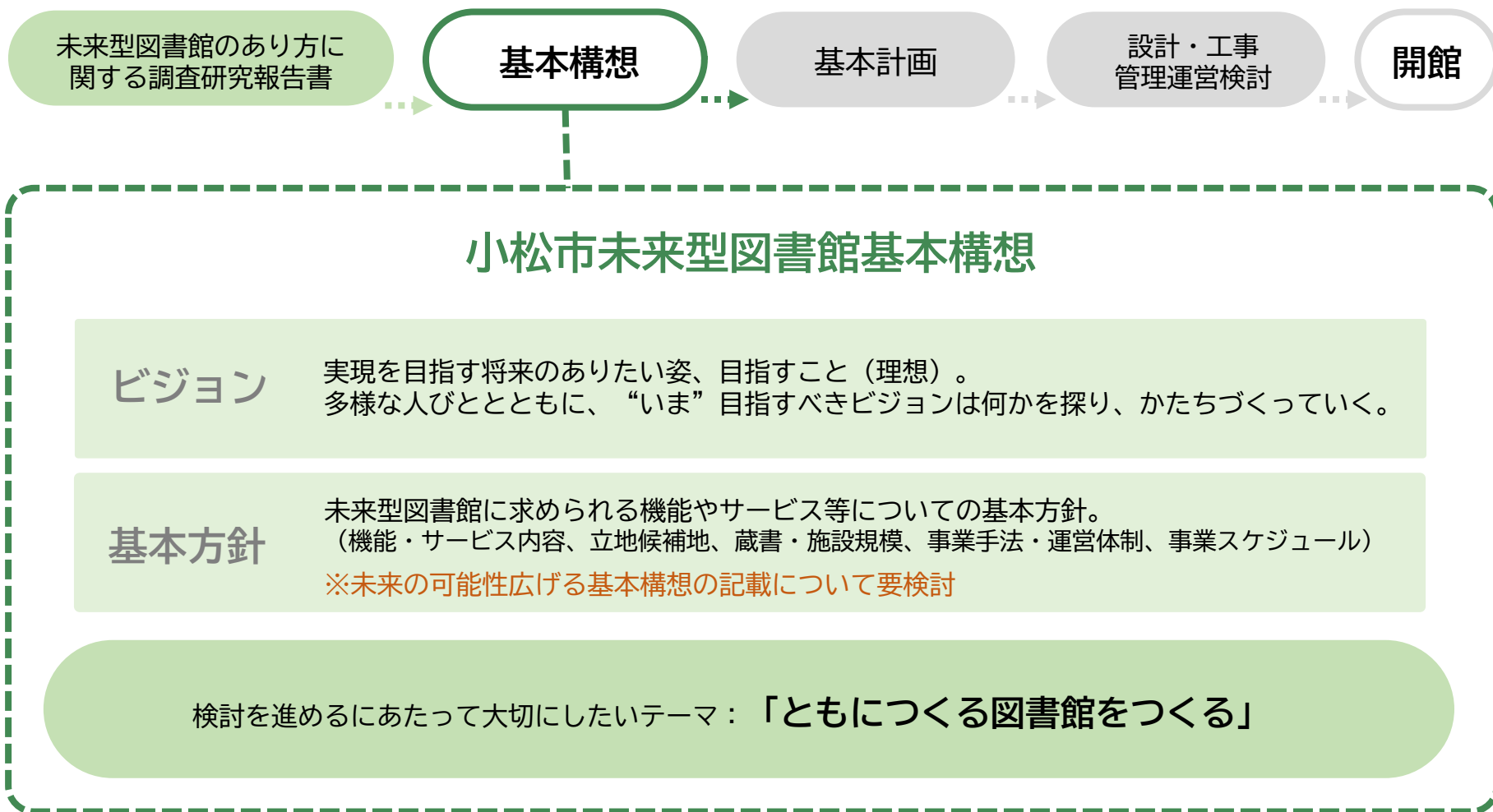
2022年6月28日（火）

arg

基本構想について

基本構想では、令和3年度に作成された「未来型図書館のあり方に関する調査研究報告書」をもとに、未来型図書館実現のための目標として、ビジョンやコンセプト、基本方針を取りまとめていきます。

今年度策定する基本構想は、その先で検討していく基本計画や、設計・工事、施設の管理運営運営等の土台となります。



「未来型図書館」のあり方を、変わり続ける未来にわたって地域のすべての人々にひらき支えていくものとして捉えます。そこで、本業務に取り組むにあたって「ともにつくる図書館をつくる」というテーマを設定しました。未来に起こる変化のなかで、絶えずつくり続けていくかたちとして、＜共創＞を重視します。



共創

市民・行政の
一体的な
取り組み

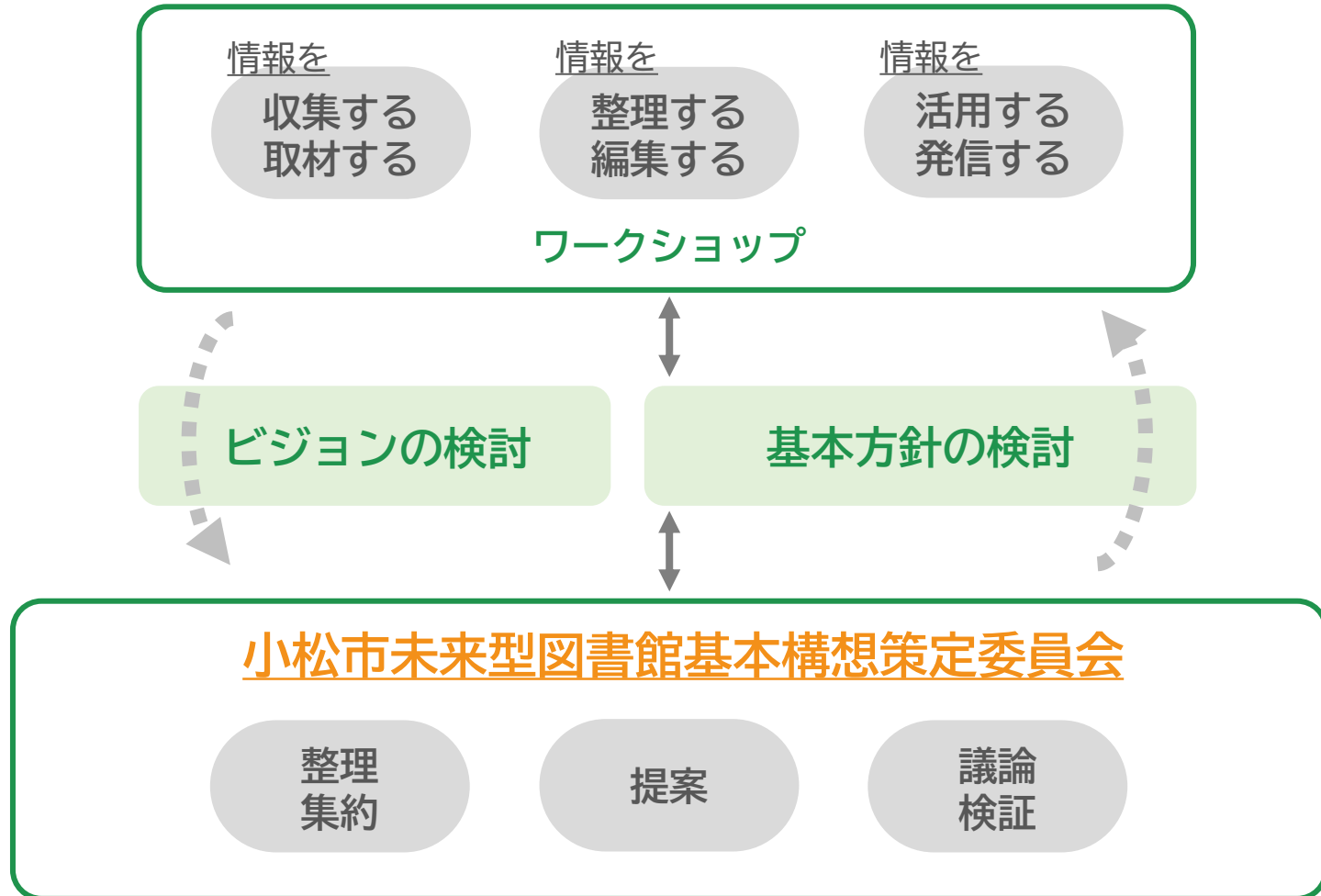
相互的な
検討

継続的・持続的
関わり

小松市未来型図書館基本構想策定に向けた検討のイメージ

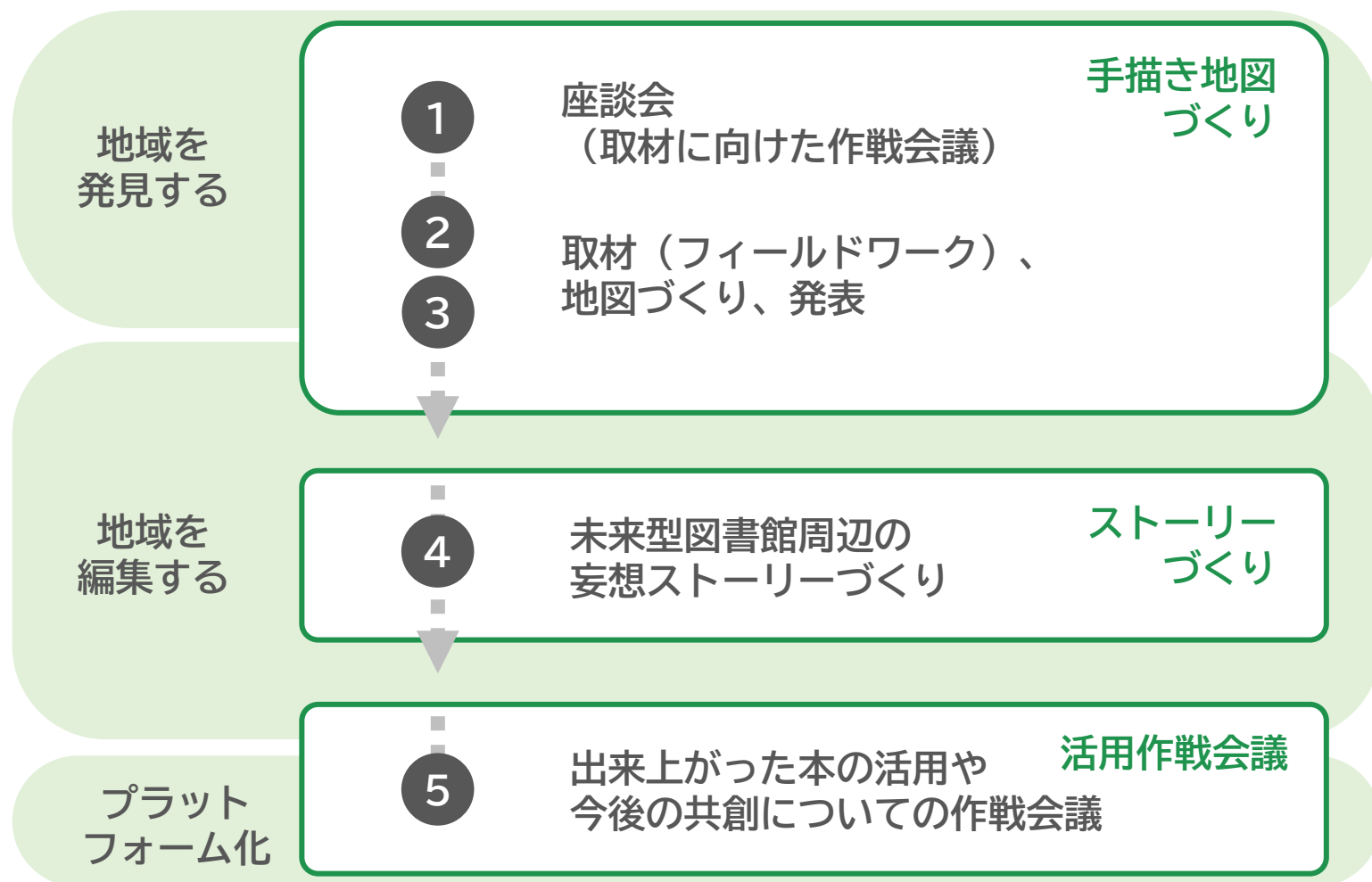
小松市未来型図書館基本構想策定委員会では、基本構想におけるビジョンや基本方針の具体化に向けた検討を行っています。

ここでも＜共創＞を重視し、ワークショッププログラムと連動しながら市民とともに地域を取材し編集するプロセスを通じて、未来型図書館にとって必要となる機能・サービス、市民の地域での暮らしや、活動の動きも踏まえた立地の可能性を浮かび上がらせることを目指します。



ワークショップについて

ワークショップでは、「ともにつくる図書館をつくる」というテーマで本（簡易的な冊子）をつくります。全5回を通して「地域を発見する」、「地域を編集する」、「プラットフォーム化」というステップを踏みながら、「未来型図書館」のビジョンや基本方針の＜共創＞、また、将来にわたって持続的に市民・行政がともに作り続けていくための体制の基礎づくりを行います。



初回から第3回にかけては、「小松で、小松を、知る・学ぶ」というテーマのもとに、手描き地図をグループでつくります。出来上がった手描き地図は、制作する本の1つのコンテンツとなっていくます。

手描き地図づくり「小松で、小松を、知る・学ぶ」(第1回～第3回)

- ・ 参加者の地域について知っている情報、関心などを共有
- ・ グループでの焦点を絞る

地域を
発見する

1

座談会
(取材に向けた作戦会議)

2

取材(フィールドワーク)、
地図づくり、発表

3

手描き地図
づくり

地域を
編集する

- ・ 実際に地域を取材する
- ・ 手描きで地図のかたちにまとめる



➡ ビジョン、基本方針(施設計画に関する検討)の素材となる

【参考】地図（マップ）づくりワークショップ完成物イメージ



※高知県四万十町ワークショップ「四万十町のまちの記憶を探る ～コンテンツづくりから考える四万十町文化的施設～」
 <古い写真からまちのストーリーをつくろう> (2020年)

【参考】地図（マップ）づくりワークショップ完成物イメージ



※高知県四万十町ワークショップ「四万十町のまちの記憶を探る ～コンテンツづくりから考える四万十町文化的施設～」
＜みんなでまちを記録しよう！＞（2020年）

【参考】地図（マップ）づくりワークショップ完成物イメージ



※文化庁メディア芸術祭「文化庁メディア芸術祭富山展 のらもじマップワークショップ」
(李過去事例)

第4回でのワークでは、現状はないが未来で起こしたい体験と施設との関係はこのワークを通して考えます。

最終回では、ワークショップに参加していない市民へも届き、想いを共有するために、ワークショップを通してまとまった本を、どう活用すると良いかまで、市民と一緒に考えます。

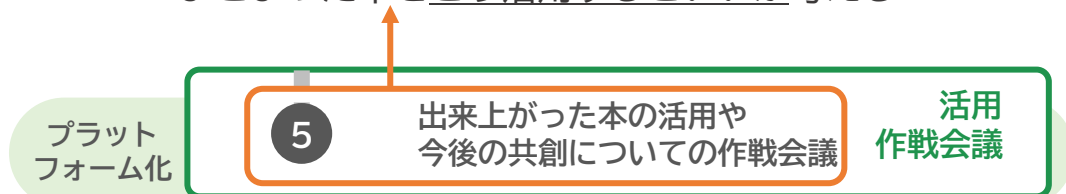
ストーリーづくり「未来型図書館周辺の妄想ストーリー」(第4回)

- 施設の周辺で起こるといい未来の妄想ストーリーを描く



活用作戦会議(第5回)

- 想いを共有するために、まとまった本をどう活用するといいか考える



➡ ビジョン、基本方針の素材とともに、継続的な＜共創＞の体制の土台となる

本の活用について

本づくりのワークショップは、自ら編集し発信していくメディアとしての図書館の実践という側面も持ちます。

また、完成した本に基本構想の内容を簡潔にまとめたページも追加することで、小松市未来型図書館基本構想概要版としても活用していきます。上記のような製本を行わない形態でまとめていくことで、基本計画やその先の段階でも検討の進捗に合わせて必要なページを追加していくことも可能です。

自ら編集し、発信していくメディアとしての図書館

- 情報を収集・蓄積し提供するだけでなく、自ら手づくりで編集して発信していく**メディアとしての図書館の実践**

(参考イメージ)

A4もしくはB5サイズ両面印刷でコンテンツを出力し、製本はせず、二つ折りで口をテープで閉じる



※岩手県盛岡市（他社事例）
「盛岡という星の測量室 盛星クリエイターの地図カキカキ」

ともに作り続ける「概要版」

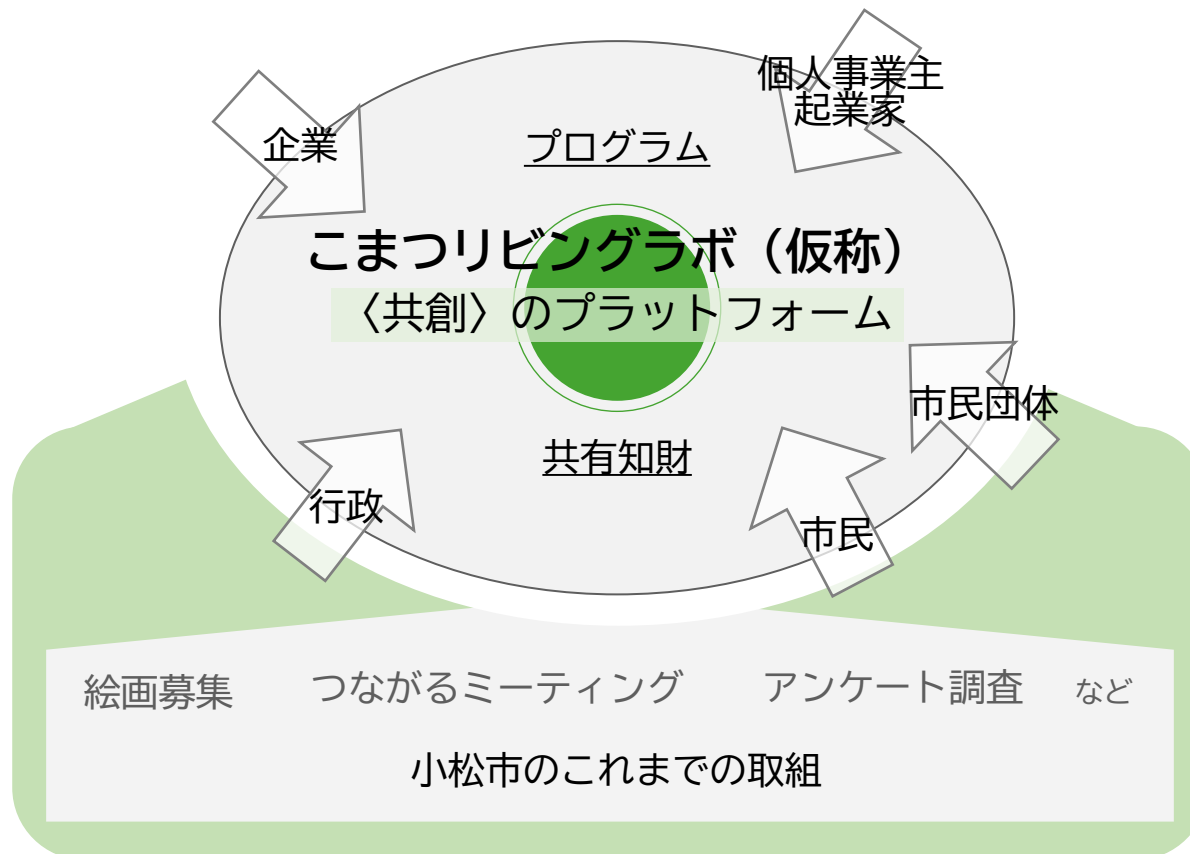
- ワークショップで完成した本に、基本構想の内容を簡潔にまとめたページも追加し、小松市未来型図書館基本構想概要版としても活用
- 継続的に市民と一緒に創り、またそうした市民の活動をサポートしていくという**図書館の姿勢の表明**にもなる

持続的な共創プラットフォーム「こまつリビングラボ」（仮称）の立ち上げ

継続的で持続的な市民共創を実現するために、本事業だけでなく、まちの課題の解決に向けた＜共創＞のための対話と活動のプラットフォーム「こまつリビングラボ」（仮称）の形成を目指します。

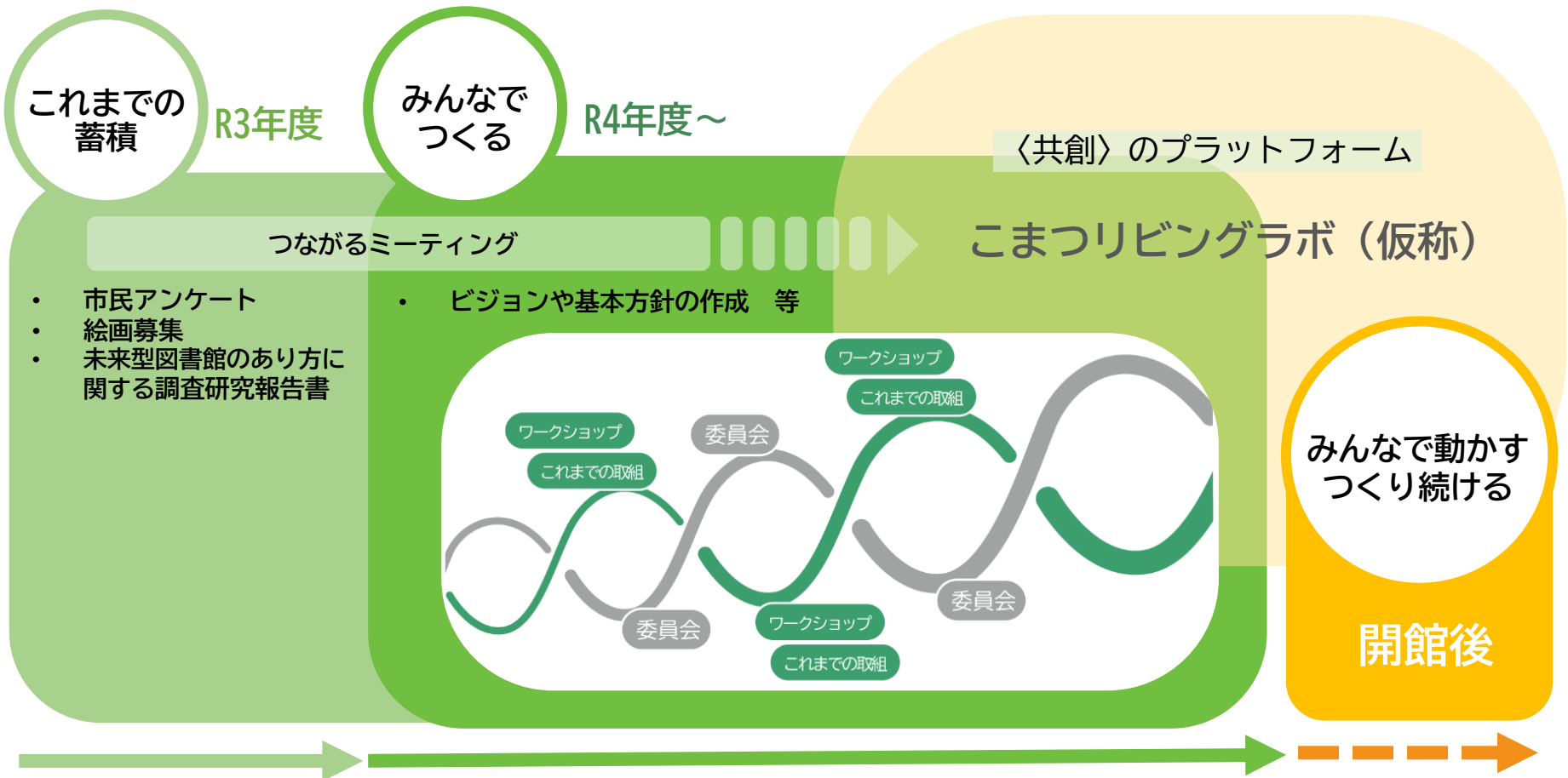
令和4年度の本業務においては体制の立ち上げまでを行います。

全5回のワークショップを通して、コミュニケーションの土台となる基礎づくりを行います。ここでの出会いやコミュニケーションを起点として、間口が広くゆるやかな、誰もが参加できる市民参加のプラットフォームの形成を目指します。



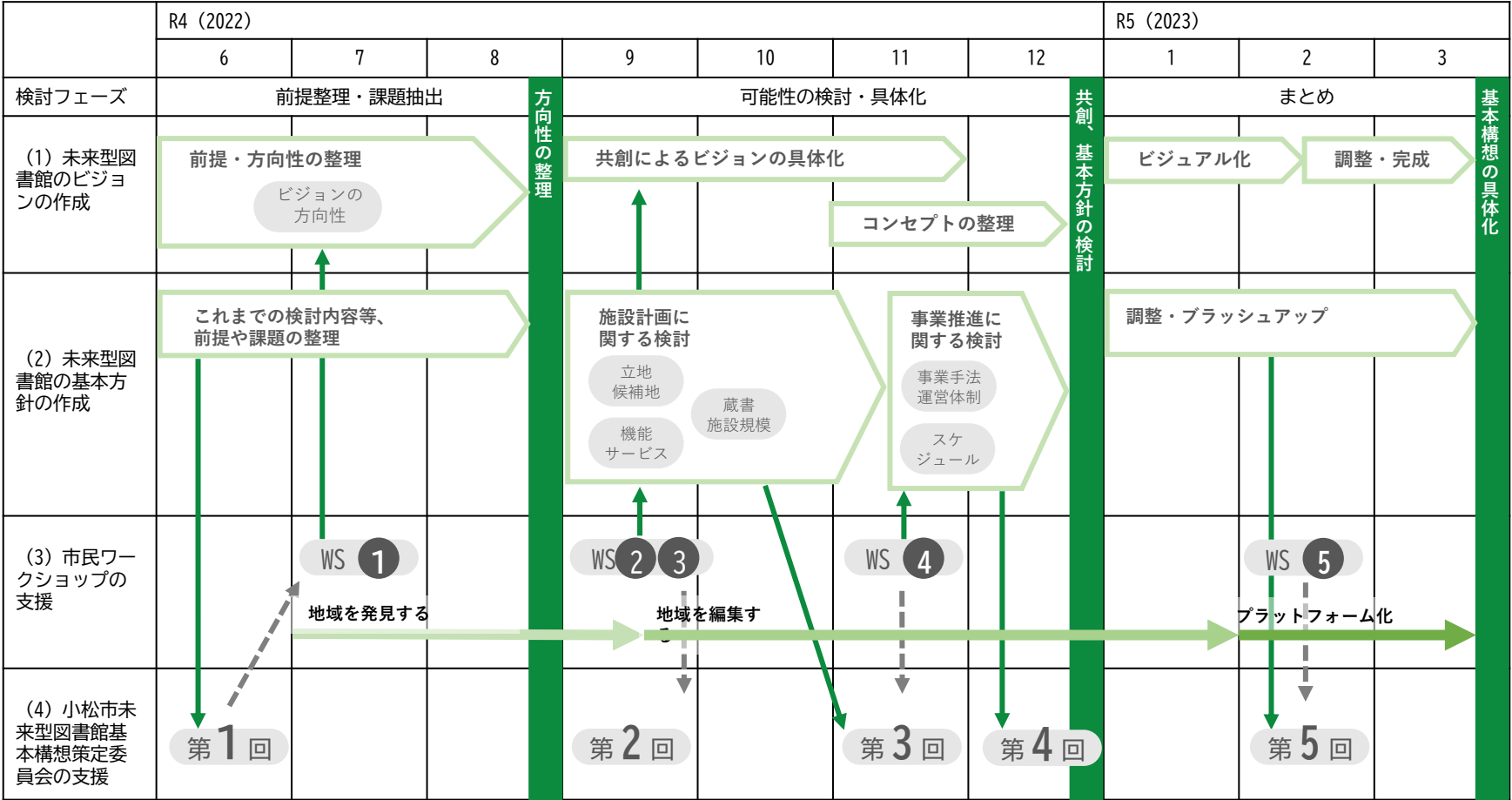
基本構想の検討に当たっては、これまでの取り組みをしっかりと継承しながらこれからのアクションとつなぎ、連続性のある検討を行っていきます。

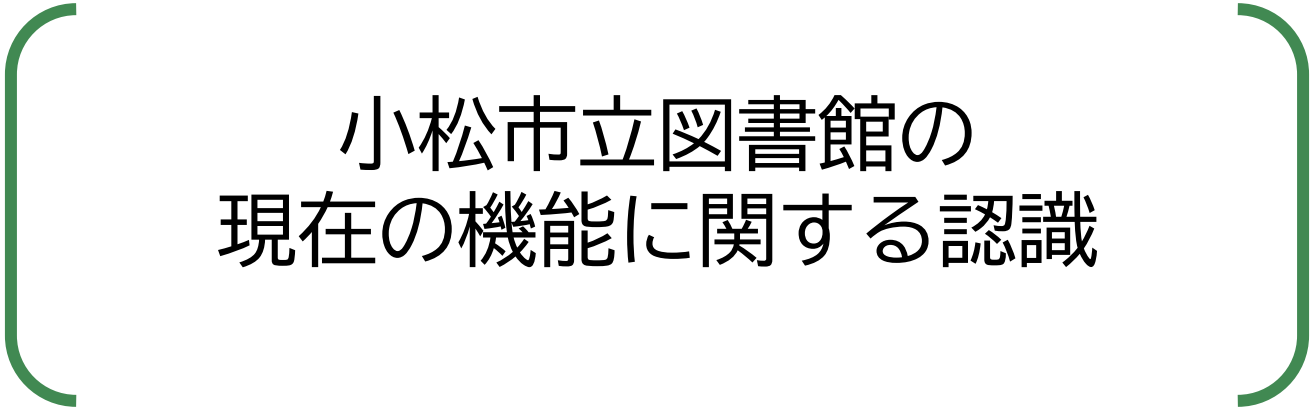
また、市民・行政がともに考え、一緒に取り組むことで、それぞれの役割と責任が相互に作用し、融合した共創を目指します。市民・行政の双方がパブリックマインドを持ち、市民が主体的に参画することで、新しい公共のデザインが可能になります。持続的な仕組みづくりを意図したプログラム設計によって、ゆるやかな共創のコミュニティの形成、また、みんなで動かすつくり続ける施設の実現を目指します。



令和4年度の本業務を、「方向性の整理」、「＜共創＞、基本方針の検討」、「基本構想の具体化」という3つのステップに分けて進めます。各業務が相互的に関わりながら検討を進めていけるように、各プログラムを設定しています。

次年度以降の整備、また、管理運営段階との連続性も意識しつつ、検討状況、またコロナなどの社会状況にも適応しながら調整し柔軟に進めていきます。





小松市立図書館の 現在の機能に関する認識

市立図書館3館（本館・南部図書館・空とこども絵本館）についての認識

現在の機能に関しては、本館・南部図書館・空とこども絵本館を含めた市立図書館3館での視点、また本館単体についての視点、小松市という地域における図書館機能の視点の3つに分け、市立図書館3館での視点からは、以下の3つの点で整理しました。

3館の関係

3つの図書館が**それぞれの役割を果たす**

- ① 本館
……図書館機能の中核機能
- ② 南部図書館
……南部地区の地域サービス機能
- ③ 空とこども絵本館
……子育て支援やまちづくり等の機能等

市民にとっての 図書館の存在・認識

- 図書館は**日常的な存在ではない**
- 本の貸出サービスが提供される施設

サービスの現状

- 利用者にとって幅広い「知る」という欲求や必要性に対して十分に応えられるとは言えない状況
- **デジタルの情報コンテンツ情報環境の視野**でも捉えていく必要

本館単体としては、蔵書の収容能力が限界となっていることが現状見えている大きな課題です。また、保管されている貴重な郷土資料や移動図書館「みどり号」など、既存のサービスを効果的に活用しつつ、具体的に意識されていない体験も含めて、図書館としていかに多様な可能性を広げ支えていけるかを考えていく必要があります。

蔵書数の問題

- 蔵書**収容能力の限界**
→特に深刻な課題を抱えている

郷土資料の蓄積・活用

- 貴重な郷土資料が多くある
- 蓄積された情報を**いかにより利用しやすく、効果的に活用**していけるか

利用体験を支えるための環境

- 多様な利用体験を支えられる環境ではない
- 具体的に意識されていない体験まで図書館として**どんな可能性を広げていけるか**

地域をつなぐサービス

- 既存のサービスも活かしながら、施設が持つ機能・サービスをどのように**地域全体にひらいて展開していくか**

小松市には、公共・民間を問わず文化の発信、学びや交流を生む施設が豊かに存在しています。実際に地域に文化が根付き、そこに暮らす人々・集う人々の日常が、歴史・文化とつながっているのが地域の大きな特徴です。こうした地域の施設や、その中で営まれる活動を地域全体での視野でとらえ、市内の図書室・図書コーナー、学校図書館等と連携しながら図書館機能としてどう効果的につないでいくかを考えていく必要があります。

地域の情報・体験をつなぐ

- 地域には、文化の発信、学びや交流を生む施設が豊かに存在し、また実際に地域に文化が根付き、そこに暮らす人々・集う人々の**日常が歴史・文化とつながっている**
- 地域の施設やそのなかで営まれる活動を、図書館機能としてどう**効果的につないでいくか**

施設間の連携

- **地域全体での視野**で、市内各施設と連携したサービスの検討を行っていく必要がある
- 図書館機能の相互的な補完にとどまらず、**学びのプログラム**を共に検討し運用していけるような連携も重要

機能・サービス内容に
関する考え方

小松市という地域、そのなかでの図書館機能①

ここでは、小松市立図書館の現在の機能、地域性や未来型図書館の方向性を加味しつつ機能・サービス内容に関する基本的な考え方を整理しています。

施設づくりについては、繰り返しお伝えしている＜共創＞を重視し、実際の業務が開始して以降、ワークショップ等のプロセスのなかで、より具体的に検討していきます。

(1) 図書館の役割

すべての人たちの「知る」自由を支える

- 様々な要素の相互作用によって「知る」という可能性の広がりを追求

(3) サービスの考え方

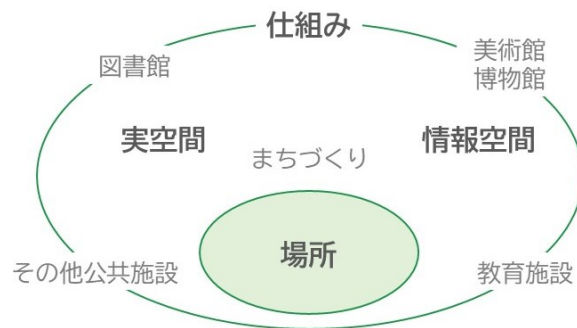
集う人々、その活動や体験の自由や多様性

- 集う多様な市民、その土台となる地域の特性、地域のなかでのエリアの特徴等を複合的に検討

(2) 情報や資料、それを支える環境の考え方

実空間と情報環境をつなぐ

- 建築と情報環境やサービスがシームレスにつながるなかで、環境全体をデザインする



地域のなかでの面としての検討

- 図書館が地域の施設との関係性のなかで、地域や情報を可視化し、どう活動を支えていくかを検討していく

(4) まちづくり

まち全体にひらかれた施設

- 市民とも積極的に関わりながら、市民とともに
につくっていく **<共創>のかたちを重視**



(5) 運営の考え方

施設をともにつくり動かしていく

- **「やわらかな官民／公民連携」**を目指し、小松市という地域ならではのPPP（官民／公民連携）のかたちを探る
- 縦割りを超えた一体的な推進体制・運営が重要。行政・市民・民間がそれぞれの責任は持ちつつ、枠にとらわれない**市民協働は、公民連携の第一歩**となる。

A large, dark green, rounded rectangular banner is the central focus. It contains the Japanese text 'ともにつくる図書館をつくる' in white. Surrounding the banner are several small, stylized human figures in various poses and colors (blue, green, white, orange, red, grey). Some are standing, some are sitting on the banner, and one is holding a book. The background is plain white.

ともにつくる 図書館をつくる

令和4年度の本業務を、「方向性の整理」、「＜共創＞、基本方針の検討」、「基本構想の具体化」という3つのステップに分けて進めます。各業務が相互的に関わりながら検討を進めていけるように、各プログラムを設定しています。

次年度以降の整備、また、管理運営段階との連続性も意識しつつ、検討状況、またコロナなどの社会状況にも適応しながら調整し柔軟に進めていきます。

